

常用歯科辞典

第4版

Current Dental
Dictionary

アプリ利用権付 (iOS, Android版)

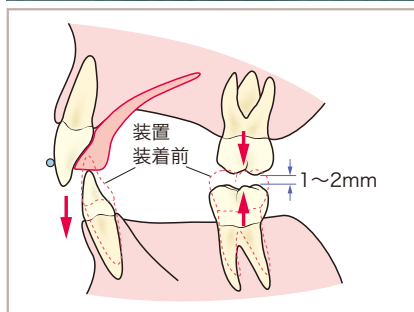
スマホ・タブレットで
電子版が使える!

アプリ利用権付
(iOS, Android版)

医歯薬出版株式会社



は咬合しない。この状態が習慣化すると、咀嚼圧の加わらない臼歯が挺出し、下顎の前歯は挙上板に当たるため多少圧下されて、オーバークロスが減少し、咬合が挙上される。



☐咬合挙上板

咬合記録 こうごうきらく interocclusal record

→ インターオクルーザルレコード

咬合均衡 こうごうきんこう occlusal balance

→ 咬合平衡

咬合高径 こうごうこうけい occlusal vertical dimension → 顎間距離

硬膏剤 こうごうざい plaster ☑ 皮膚に適用する軟膏様の製剤で、常温では固形で、皮膚に粘着性のある外用剤である。脂肪、脂肪油、脂肪酸塩、ろう、樹脂、プラスチック、精製ラノリン、ゴムなどを混合し、他の医薬品を均質に混和して適当な硬さとし、布、紙またはプラスチック製フィルムに伸ばして適当な形にしたものである。絆創膏、サリチル酸絆創膏、単鉛硬膏、サリチル酸石

酸硬膏などがある。⇒ 絆創膏

咬合採得 こうごうさいとく bite taking, maxillo-mandibular registration 《顎間関係記録 jaw relation record, maxillo-mandibular relation record》☑ 上下顎の上下、左右、前後的位置を三次元的に記録する操作をいう。通常、中心咬合位あるいは中心位の顎間記録を採得する。上下顎に対向する多数歯が残存して、咬合高径が定まっている少数歯の歯冠修復や欠損補綴では、中心咬合位を設定しやすいが、無歯顎の咬合採得では上下顎咬合床を用いて、上下顎間の位置関係を記録する。その方法としては、垂直的位置の決定には、下顎安静位、顔面計測、嚥下運動、発音機能などを参考にし、水平的位置の決定にはゴシックアーチ描記法、習慣性開閉運動路、ワルクホッフ小球法などで上下顎義歯を嵌合させる三次元的位置関係を記録し、咬合器に付着する。

咬合採得用シリコンラバー こうごうさいとく

ようしりこーんらばー silicone material for bite registration ☑ 上下顎の顎間関係記録を採得するために用いられるシリコンラバー材である。一般的に、咬頭嵌合位が安定している場合に用いる。咬合採得したシリコンラバー材にアンダーカットが存在したり、印記面が精密すぎると、模型の適合が確認しにくく不適合になる場合があるので、その部分を除去するなどの注意が必要である。⇒ インターオクルーザルレコード

咬合紙 ☑ こうごうし articulating paper ☑

インクあるいは色素を含んだワックスで表面を被覆した薄紙、あるいはプラスチックフィルムである。咬合接触関係や咬頭干渉をみるために、上下歯列間に介在して咬合させ、その位置を天

然歯あるいは人工歯咬合面，舌側面に印記させる。片面あるいは両面で印記できるもの，片側用あるいは両側用のものなどがある。



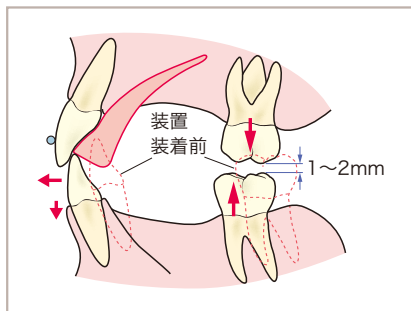
咬合紙

咬合支持 こうごうしじ occlusal support 固

咬頭嵌合位を保持するための左右側小白歯部，大白歯部における咬合接触部分をいう。

咬合斜面板 こうごうしゃめんばん jumping plate 《ジャンピングプレート jumping-the-bite plate》 Kingsley によって発表され，混合歯列期の下顎遠心咬合の治療に用いられる機能的矯正装置である。本装置は，①斜面板付きのレジン床，②クラスプ，③唇側線，からなる。斜面板は，レジン床の上顎前歯の舌側にあり，下顎を閉じる際に下顎前歯の切端が前方に滑走するような斜面である。下顎切歯が斜面最前部で床と咬み合うとき，小白歯，大白歯部は咬合せずにわずかに開咬状態になる。このような状況が習慣化すると，下顎の前方位が定着し，上下顎白歯は挺出して，オーバージェット，オーバーバイトは減少する。また下顎前歯は，斜面板に当たりごくわずかに圧下および唇側傾斜する。この下顎の前方位は，顎関節部のリモデリング，下顎枝の成長によって保たれ，咬合挙上は歯

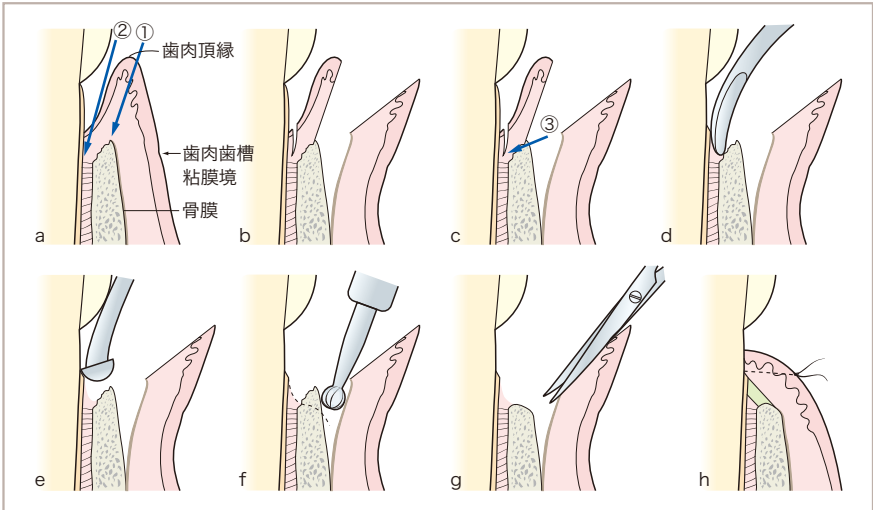
槽骨の成長によって安定し，筋機能も下顎の前方位に適応し改善される。



咬合斜面板

咬合床 こうごうしょう bite plate, record base with occlusion rim 《バイトプレート bite plate》咬合採得時に用いられる記録床で，作業用模型上で製作され，基礎床と咬合堤からなる。咬合平面の設定，咬合高径の決定，下顎位・下顎運動の記録，ゴシックアーチの描記，フェイスボウトランスファー，人工歯の排列位置，顔貌の修復程度などの各種情報の診査記録決定に用いられる。維持安定のよい咬合床の製作が必要である。修正可能な材料で製作され，基礎床にレジン，ろう堤にパラフィンワックスが使用されるのが一般的である。⇒咬合堤，基礎床

咬合小面 こうごうしょうめん occlusal facet 《咬合局面 occlusal facet》白歯咬合面，上顎前歯口蓋側面，下顎前歯切縁にみられる摩耗面をいう。天然歯



□フラップ手術— a: 切開, b: フラップの剝離翻転, c: 病的歯肉片の除去のための切開, d: 歯肉片および肉芽組織の除去, e: スケーリング・ルートプレーニング, f: 歯槽骨整形術および歯槽骨切除術, g: フラップ内面の処置, h: フラップの復位と縫合(吉江弘正ほか, 編: 臨床歯周病学 第2版. 医歯薬出版, 2013, 91を改変)

の幅が少なく、歯根の露出が著しいと予想されるもの、②垂直型ないし混合型の歯槽骨吸収のみられるもの、③水平型歯槽骨吸収で、場所によって吸収の程度が異なる場合などである。→歯周ポケット搔爬

フラップレスサージェリー flapless surgery □ インプラント埋入手術の時間短縮、出血および腫脹を軽減するため、歯肉粘膜、骨膜を切開剝離することなく、インプラント埋入手術を行うことをいう。この手術を適切に行うためには、あらかじめ、CTによる十分な術前の診査診断が必要であり、この診断をもとに製作されたサージカルガイドプレートを用いる。上記の利点もあるが、盲目的な手技なので、誤って神経や血管を損傷する危険もあるため注意を要する。

フラビーガム □ flabby gum 《コンニャ



□フラビーガム

ク状顎堤、浮動性歯肉 flabby gum, フラビーティッシュ flabby tissue) □ コンニャクのように分厚く、被圧縮性、移動性をもった顎粘膜組織である。病理組織学的には、顎粘膜の結合組織の増殖を伴った慢性炎症である。原因は、咬合の不均衡、適合不良な義歯などによる床下支持組織への不適當